

香雲

W 呈
911.158
M.
2-10

60615



実陸公集

春部

立巻焼

元日



野次
初定春
貴後
遠去
都初春

何れのききぬさのこまひにうらはるもむねわよめうらさふり

いふともむねむ方よふわまりある所のめらこのもるべきにん

まきぬらんのま家のこまひとあひはあふのまやうん

まよふいひぬぬ家の何らうらりまもあふるむせこぬ

朝日けしあそをうらうらやまきまよふぬ家のまのハ

このまよひのわがまよふのこまつのはらのひくわ

位やみひうらばらのまつ風まきこのまよふもよそふ

わらうらうらうらふゆふのまよふもまよふのまよふうん



江戸

凍消池
多岐

池氷
多岐

子日
催具

野子日

子日松

夜

遠聲

曉霧

山

下も池の多岐のそと風も氷ごまの流るるそく

まの池はあゝ多岐とかくころるあすちりり流

りあつこま子日ご時とむちと招ひひねくそむごあ

まや人のころもさむさきこのへまむれぬくひく子のひ

のへひくかそのお招ひとかのみりもあはれとあ

むらりもあそ子日とあそこのあむせ招よこゆん

花のまを山まゆもますこと招よあまあそそあ

ままを夜をひらりりりりもたもひきさき山のあさほけ

あきひかののこし一霧さへあをへるこまのふこま

けころあうこまむふ山まのまつあのうこけやうあ

海

遠山

海

山

海

海

海

海

海

おすれあられいこひの招ほきまよあれてこあうあ

招こもみよりのあひのまのうらまきりやうこつうこあ

はうくとあはれしんあうまこゆやまのこころ山を

山かきやうあ招よこむんはうこあまあもあう

すきつうあとい風のまら羽山ゆくすもあはれいせさ

なりめてあまもんと沖の波うすも招きのまらうう海

まげううつううすも招あさいんあはれやまうう海

あわうう山あさりとまつあのとすこいこまうう川の波

河あうこままはうすこの元ひてううきあううちのまら

まはううあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

花中堂

朝まじさうすやうものゆるりあつこいあぬきのこと

野

むらびさうこのこまやのうさゆかまといひてさうをあく

野

小まつりさうさひぬきのことつひよりひれて

野

まよぬきとわつばとのまけこのあまらあまぬきあく

竹

こも火の木のくめきせいはまぬき竹のきのことさうのむ

野

うらひすのあひとを梅々やうすもぬきさうさうする

野

さうさうたのともあまへせよきさうのむらまことのことひす

山

花さうやとりむらへはあのとあつてさうのたう

山

まよさむきこのあまのうれさうもつらわあぬきすうぬき

山

むらさう始
むらさう始
むらさう始

山

むらさう始
むらさう始
むらさう始

独

あくるさうのさうの(まよて友しゆあすつむわあぬ

求

つこくえわあつこもさうあまぬきさうのむら

知

まよあつひあつこのさうつむらまのわあまや

野

日もつこあすのわあのことむあてさうののりすこ

野

下もえのわあつこつひさういさまのあつこのま

野

さうさうむらとまねくさつわあぬきまよさうさうの

野

りけぬ山と水のけさうちとけさうをさうさう

野

境のことさうさう月のひさうなまよあつてまよの

野

うちまよひさうあつもの神とあれやいつかまよのむら

野

あつてまよのまよさうさうに保後さうまよのさうの

野

あつてまよのまよさうさうに保後さうまよのさうの

野

あつてまよのまよさうさうに保後さうまよのさうの

招張香

香

香

香浦

香

香中

香

朝

香

さしうらばうとや香のころん招とやりのこの風は

香もあしれたの梢のちうあうてまふや香のこの神を

香とあさこゆきうとあさこの香もあさこゆきうとあ

香はいつきうとあさこの朝ととりまよあさこゆきうとあ

のうはあもあさこゆきうとあさこの朝ととりまよあさこ

ゆきうとあさこゆきうとあさこの朝ととりまよあさこ

ゆきうとあさこゆきうとあさこの朝ととりまよあさこ

ゆきうとあさこゆきうとあさこの朝ととりまよあさこ

ゆきうとあさこゆきうとあさこの朝ととりまよあさこ

里

梅

梅

梅

香

梅

梅

梅

けこののむのさくまかひあつあまや龍波の里ーさし位

むのむのさくまかひあつあまや龍波の里ーさし位

むのむのさくまかひあつあまや龍波の里ーさし位

むのむのさくまかひあつあまや龍波の里ーさし位

むのむのさくまかひあつあまや龍波の里ーさし位

むのむのさくまかひあつあまや龍波の里ーさし位

むのむのさくまかひあつあまや龍波の里ーさし位

むのむのさくまかひあつあまや龍波の里ーさし位

むのむのさくまかひあつあまや龍波の里ーさし位

柳緑新

隣家柳

風車揚柳邊

柳麿風

一帯家

水邊柳

詔一

名一

松柳遠池水

江畔柳

室柳水

早蕨

桂葉一

磯草葉

泉邊草

五月

一柳

五月曉月

いくちよのそと久しういよのおおわつともいひくま柳
降しやといひとやわつねにかのやあさわねみとら
くすけぬの玉のこ家さきてみるの柳あぬま風
うちあひき柳よあうやうひらむようん風とやいら
ま風よみこれとて波を柳のえさこりえさよつあ別家
らそあこしてさやうのゆくおしおひうしま柳のゆき
さうてあこられをみちのま風もこととよつしま柳のい
きせさばきいよのそあゆふよつあま柳のい
せさ入く松はわくま池のつこの柳あつぬまうつせ
らに風はひく柳よこつあ入江のこあゆさうしうく

まことくけみこいれい波もつうき柳やきよちさむ
海さぬむのけのまつらひひくまきもたさこ
里ちうく柳もつと柳もひふうらあはるのやとに
らる詔の磯さちあつとつあもあわのわつをよまう柳も
よひいれあめあめあめあめいこあせうさのたさ
おむぬのあそわいほのいと入は月のつてもちわをかん
もろ月とおあつむむのまあさうまや芳と一のあつをよ
かまむあ波れいつくあうらさ名さへわすてこの月み
あうよのせんまあよふせやくりすえに一つむやまの月
たもあひき花をゆくもまのあつあぬ波はたのわけし

五月

かのつねり月うらにこの中世うよ海ひや月のさちも明のうけ

園五月

われまゝるやその園や又さう月もまほはあはもる龍を以て

涼春日

吹上のちのま風いつつふ月もささくさむ波は

河津

波のちにはあふすう河風は月ハあしの浅せともぬ

浦

かすむの月を離波のことつらあとううさるもあつらひ

夕曙

月あのをれよものもつらんあくとさのうらさあ母の

郡

みまにあぬうと郡のまをさ又曙らすむはらのやう川

江

うあまそとつれういこのさういまであ母のすむの横を

湖上

ふすうう入部のあけのつくとあまこあまのあけの

山

ゆくあのおこふふすうう流やあつ風はうすむあかの

山

ささむむいあはううてあかの、ちさふとこのむよさく

房

わらねくまのあまの暖又むふうすむまこちの山

谷

あうらうをへくのまのまをぬまあこれやまの松のうい海

谷

うすこさへいくまうこつう谷のまとはまのあちのちあぬのさ

山

月あううすみまてぬこちあまのうまうくらうくわのちあぬ

山

あつとせ人よあつれあまてうまもあううすむあちのや

山

さうあけまの物といぬのまもあつれさうまうすむまもさ

山

あままいつあつれさうく心あくまをさううあぬのううらう

山

あまはまあひらうの山のゆかうすんを海えれさう房のつ

山

すこあつれまをさうまもさうせもやけもさうまをううら子

花土他

花女

- 朝一
- 花
- 鹿
- 花
- 花
- 花
- 花
- 花

ちりも又わくらぬわたりちりて心のまど花よこきてよ
 あつて一わきののまもさうよ又花よりへてちりともか
 隔われをぬかひさしきさしとたへれさむの栞とらる
 おもひぬきむのへうちほち柳むむのほのうらぬさうも
 咲あまこやこむのちのうらよしのさうもさうのしりち
 われぬむむ日ことと花あつあつそまふあつあつ
 ちまふさしとつと山さうしてすそもとゆさうゆよ
 かさつらうゆらうこの花のひまこてあの花よとむ
 月こそき花のこのアの心風をこぬきかきむのうらびら
 ねらむくあつあつのおひまもよかひこかむのあつあつめ



- 夕花
- 花
- 花
- 花
- 花
- 花
- 花
- 花

われもらんきとむよちまりてもくろ夕のこの下いお一
 ちかひら風やうと知のち中くちうさむのこさき
 へぬやと花のこ所えくあつ老木のむそかき
 花よさくくすあつあつのおひまこてあの花よとむ
 ねらむくあつあつのおひまもよかひこかむのあつあつめ
 あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
 花のむよとあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
 さうさあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
 みや代なあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ
 ちりさえい名もつらあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

花山の
花

花魁

招る花

花波

一旬

一色

一手向

一妻友

故法院三子侍
一妻友

挿花

花散

一花

一花

花

花

花

花

さもわらわれおわりの山桜ちりもむよめとあはれむ

うろろひむさふもふかすいふさうねもあやうらも

咲つぐとそとさうと吉の山さよも尾もむの一むら

あゝぬきむさばく松風の指りまうら花のひとあは

ふの川指のけささうらへくあやうらさす花のき波

山かつささる指さうへも旬をむのこちうらへうら

みむさおむ指はうろひくもさあゆめあはれむ

一さうりすれもさうめあはれむのむさうらあはれ

なれぬきハとささるさうらへくもさの葉のむさうら

うらこととあゝぬきお花のとのえらうら花あはれん

く歌来てあはれむもあうすとよなご一花もうらへてそゆ

うらこととあゝぬきお花のとのえらうら花あはれん

風とのさうらあはれむもさうらあはれむの枝あちうゆ

ぬらうささるあはれむもさうらあはれむの枝あちうゆ

さあはれむもさうらあはれむもさうらあはれむの枝あちうゆ

おもひけいあちうらあはれむもさうらあはれむの枝あちうゆ

いあむもさうらあはれむもさうらあはれむの枝あちうゆ

あうらあはれむもさうらあはれむもさうらあはれむの枝あちうゆ

さうらあはれむもさうらあはれむもさうらあはれむの枝あちうゆ

あうらあはれむもさうらあはれむもさうらあはれむの枝あちうゆ

あうらあはれむもさうらあはれむもさうらあはれむの枝あちうゆ

夕煙

田一

鄰端

一紅

谷一

離歌

夕つゆのゆくはるまじれをひくねのこやふたす煙を
夕ぐれのみちちとくど山田は初よりつゆと久くな
秋のあしをよきはのしついで紅雲のまよきとらん
ついでくぐりゆくゆまをまもこちの色をさあらし
こやまのふよとひきききけつ、一とそのむよあらし
くれやぬまをこせや山吹の花としてつらやのませえま

月夜清閑同のぼよ山吹とさうす

折一
折一

ゆくとぬさうのまよとてなまうつとくきおくのふま
さても折とまぬまを折つとまひあやれさ山吹のむ
うさこそ田子のうあさく花の波りけこらと折とぬれま

園一

静あつた友りけてえん花浪のさけつる折とさうけ

折一

さく花のむとぬまをま折一わらんまをさう山吹
折とらばさう一かこのよわいさあまうて折とさうあえん

江畔一

まやうさうのあまのさういさう波まうてさく花さけつ

江畔

折とくさけさあしのをぬれやみきはあなうら浦波

折を端

ちとまりさうあ人もあうと花よとやまつわとのちりし

社在折

一か代とまうよみてやうす山とちさうあくさうのあねこ

折を松

まことよちぬ折とけさう、折とのこやさけさう折こ

折を松

花とまうり折いとこのなうさうとあやと折はあやさうん

鹿折

あけとさえちりむちのたうつらう人あれかまの鹿よ

著る
水

残る
社
二月
後春

花にかかるといふこのすこしは
さほ水ありてあまもれぬんたう
まきもさきにみねとるは
くれぬのそのこのそなるむら
し女子の神もやまあな名
花よりのもろに付のち
ちるさうさかむをゆ

夏部

早夏
首
朝夏
夏衣
懐
山家夏
新樹
林

あさより花の月かもし
まもたささとまうと
むらけあられさうへ
さこのむもせり
りかきもやなと
ひとあ神よりへ
あうさうり柳さ
なまもみと
名もあめわも

卯花

まきふ波のぬしあふけしんはまきふのころ

隣

月あつはけたりとこのむのこゝろはつやのそらも

籬

月夜と甲まらさのそらもくきとまらさのむを

夕花
盛花

くらぬもあふけたりとこのむのこゝろはつやのそらも

葵

くらぬもあふけたりとこのむのこゝろはつやのそらも

山

う月さてあふけたりとこのむのこゝろはつやのそらも

郭

かきまるともりまらしつとこのむのこゝろはつやのそらも

清

かきまるともりまらしつとこのむのこゝろはつやのそらも

初

かきまるともりまらしつとこのむのこゝろはつやのそらも

里

はつやのこゝろはつやのそらも

園

かきまるともりまらしつとこのむのこゝろはつやのそらも

遠

はつやのこゝろはつやのそらも

郭

かきまるともりまらしつとこのむのこゝろはつやのそらも

頃

かきまるともりまらしつとこのむのこゝろはつやのそらも

遍

かきまるともりまらしつとこのむのこゝろはつやのそらも

浦郭

かきまるともりまらしつとこのむのこゝろはつやのそらも

谷

かきまるともりまらしつとこのむのこゝろはつやのそらも

山

かきまるともりまらしつとこのむのこゝろはつやのそらも

杜

かきまるともりまらしつとこのむのこゝろはつやのそらも

月常 月常

三上

差後

夜見

又月

高蒲

つぎあし月もさるも月さるありぬのそよよふのしる
おとさするひまをゆめもたもあやもまきさるあま
いささくも程かのぬかおとさすはあまのさるはらう
ふさめよあつてやるんほさす神のそののまの月
大樹も十賀屋風の経は高蒲るるあ人の
あまあまさるは

すさえのむさうりあやのまねはこまりのさもすさ
いそめくこの神あまむりといよああまの月のよん
ひうてらああつとこぬえは波な五月のまはひく
うくれぬまがこあやめもや枕さるるのりあま

池

一

古池

一

宝を橋

對橋

在る橋

子苗

梅

さみこれ
うしれ

風かけさあぬこさも池水はさけあやの匂いとさ
あやあまのあやめつむりくあもさる池のあま
ちさりとああめもなりささよこあてうまいと代はま
志りともあひはれさるぬのはさまのあやあま
さひさのむもあまのさるあまもさるさる花
うそあまのあまのさるもむりうも名もあま橋
神のうたれさるうこあまの里のひまの風のさる
ひかり田子のあまのさるあまのあまもあまの
あまのさるあまのさるあまのさるあまのさる
あまのさるあまのさるあまのさるあまのさる

み月

みづりいほしてとまの衣もさされむこのうら
らさのほくひらまのなもつられく夕のまの（ま）の（ま）の
まきまればすまの恨のなうましやまゝくみ月
ささわりの日のほれさされぬすまのぬをさ
らわいりや板子の柄をいて何れわらふみ月
さささへまもあひぬかりやわちのさのぬさ
ぬれくさわらういふささりやわらふみ月
まきぬまといふささのほあふやのま月
わかの方さ秋ちさあさちあさひわまりて
さささるこのかといのけあて友こそなれ

こく

振

森

善

は

境

堂

火

氷

夏

夏

まのそめすらほららのけあてまふさ
なつこのねけかすも月とゆきはうてあの上
みしてはぬら巻のねささうつも夏も友の
ささあさみさださひの月よす神のうら
さかとも友のさこのねのささるをわらう

麦地候

わらわく松山風のやもと川なごさへ高のちよまごし

一画名

うつりきて花のうごも夏ぬりさあがりすく月のせそめ

一露

若竹のうきはすしき風こしく秋のこあらあかれ打ち

一暎

なつらぬのさやのさむらさあけてあか物影の月の夜さ

一夜

ありもがようは夜さうすもえきつらものきとちてすし

一枕

涼さを枕よあぬ風も戸竹あつらものまのうらみ

一車

むららひひけもちとらまのあかしの秋よ夏のあ風

林蔭涼

夕すてんいさかりん山風もあつらもこのまつの下ご

夕

ぬすらあの下みのすしこも秋のこあらあむらああ

初

さそあひさあさる柳け秋もこんたこのすし

あ風涼

きくけのうごつあ涼すしこのこごさうせあ山風やかく

暎

まご死らう秋あつらものさそあさへて夏はあつらなご

夏後

ゆあきてもぬらぬらあまの秋のちとちし秋のすし

六月

ひとせもあままたこあらこの市後よりさ月日せそあ

招ひあちとせとらあ市後川しそあすしあつらあ風

秋郊

立秋

さあひ川なごさうらうら秋あ秋風すしこの秋風

一風

志母あまのあまのほちとやむはあむむこの秋うせ

草葉風

離聲

草花

秋風

系

神

草花

草花

草花

秋風

虫

草花

虫

虫

虫

草花

草花

草花

草花はまゝいもころいおあゝのまもゆりも海草秋風
 咲いてトもまゝのむをム一旬ひらつちえさあさほ
 いく秋とあゝのまゝ秋とさちんむのあゝのむをさあ
 のへらちのこのそのちくささとそのせちくさあ
 音こりや秋のつゝのおたれくさあひらりそあああ
 ね母さのちひ神のつゝにたゝかゝる秋のゆあつあ
 ちつらあさりのなこりの秋つゆあのちちあをのつちく
 めそちくこのちつ月のちちああをのほつゆのねとちちく
 うちあひく同のちちああをのほつゆのねとちちく
 下をちちくゆとちちああをのほつゆのねとちちく

ろこもあゝのあゝもこれくはあゝもこれかゝのちちあ
 あゝとちちああゝのちちあゝあゝもあゝもあゝのちちあ
 さあゝのちちあゝちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあ
 くれぬもなよちちあゝちちあゝのちちあゝのちちあゝ
 ちちあゝのちちあゝちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあ
 いもまゝけちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあ
 人もちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあ
 あゝちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあ
 あゝちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあ
 ちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあゝのちちあ

最中

野鴨

原文

ほつ

園麻

谷

曉

田

田

つきに花いづねのさくら月とほつとすつひのこゝろ

鳴すもむいあつりつらつきのあまをあるまのこゝろせ

山田屋やハ神のとりとゆとまへくめあんとすつ時をわらさ

めぬらつあまのちのつら投すきて山はつづの月うすきうけ

はまやうさうみまの秋風のとつ入の招きくそつな侍

つまらあつらさとしてえぬき谷あも麻のものあまん

うさつあ谷けあつこちりれつせぬれなまをうつらつ

つたしいもあのおちあまもれあのかつれぬくあつをほあ

うあつてつれあまのあや別んひよりうつぬくあつあま

あつともあつこのわらうもあつあつあつあつあつあつ

つらつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

秋夕

麻屋

遠

月

園麻

野鴨

最中

夜後月

禁中

半新
新

新
月

情月

独

一
新

人もあさき足元の床より新あきくさばりよむる月も

新よ戸もぬ世々し九章のこころよむとみる月も

又もより外情あきくつのもともすう志物の月も

新よの物とわきいられして月もありり庭のませうも

いらふもさうして月もあきくもぬむのうてあめこ

なる月のひともよひの名りさきあきくなる新のひり

あつさん心をけしとてあめさ新のあ代と月も

つもあき老とさしてあめあきとあき月も

起いてあめ又もあきもなま名ころとあき月

あきよの物のあきいと人とは、つらあきの月

情月

日和風

一
烟

夜後月

山登り

橋

井

流

一
色

海

あつてのこころやあきくつのもあきくつ

ととりそくあ風のすあきく月もあきく

あきくあきくあきくあきくあきくあきく

あきくあきくあきくあきくあきくあきく

あきくあきくあきくあきくあきくあきく

あきくあきくあきくあきくあきくあきく

あきくあきくあきくあきくあきくあきく

あきくあきくあきくあきくあきくあきく

あきくあきくあきくあきくあきくあきく

あきくあきくあきくあきくあきくあきく

一山

一草

一稀

鶉

林兼一

野径一

野一

江上一

菊久盛

菊花
秋多

けき菊

離一

山花声

菊所寄

流菊

周保一
文栄

秋菊
盛枝

懐
知菊

花中
唯花菊

菊前祝

身のやういあされんぞ せんじつりのあつたふさふさな衣つらさ
 はゆきの花のあなひのこころをいかにかきまへてかへりてむ
 あらさぬのーつらわい^かかのみまよひにうらやまのまよひを
 かきあやすこころのあめをこころにたふれこころつらあらん
 ちかこころをいかにのら衣たふさふさつらあころ
 くりおとらたふさふさのーたきせさぬのむしにまよひつらあり
 ゆめゆめさうたふさふさのあつたつらあころあつたつら
 うつらあころのたふさふさつらあころあつたつらあころあつたつら
 うつらあころのたふさふさつらあころあつたつらあころあつたつら
 いふさふさの君にさうたふさふさのあつたつらあころあつたつら

こころのあつたつらあころあつたつらあころあつたつらあころあつたつら
 こころのあつたつらあころあつたつらあころあつたつらあころあつたつら

手流准后七ナカヲ下 屏風の名ナリ

菊のうらところを

海にまきしく又かよひてきてく菊のうらところをまきし

いとかなんぞとせりたつゆのまのまがわてーられとせまり

くわんせしむぬのまにちまよひていふのまにりしり

すまらやうのいふのまにちまよひていふのまにりしり

立田のまにちまよひていふのまにりしり

まらういふれぬねまにちまよひていふのまにりしり

ぬれくすはくゆこのまにちまよひていふのまにりしり

いふのまにちまよひていふのまにりしり

林

淵

岩

龍

松島

草

新

衣

新

いとかなんぞとせりたつゆのまのまがわてーられとせまり

くわんせしむぬのまにちまよひていふのまにりしり

すまらやうのいふのまにちまよひていふのまにりしり

立田のまにちまよひていふのまにりしり

まらういふれぬねまにちまよひていふのまにりしり

ぬれくすはくゆこのまにちまよひていふのまにりしり

いふのまにちまよひていふのまにりしり

いとかなんぞとせりたつゆのまのまがわてーられとせまり

くわんせしむぬのまにちまよひていふのまにりしり

冬遊

みまへへり神のちむろにゆらそぬらしのしれあ

冬遊

さそひらちまへしれの指よりあしとにちくかこのそま

一涼

朝この枝よあゆま風のちあつと^か上の露をとれし

あへてあふまをまきりけし露もあもあつちこのにやう山里

夕涼

さそあゆま日そらちもみちものちうまよとわとあ指

橋

あひまの秋より後のちあをさちうせん橋よたす川

砂上

朝あま志のちあ下上く庭のおちをうすもちうつと

車中

かこひてとんとあまを車中紅あゆまよあこのころ

冬は

鴨のつあまのあもれもあれの飛はの月まのころおとけ

木枯

とみちせりけに木のちまもあしちあちうころころのち

木枯風

吹まき草のれのかひより秋あまのこぼのころ

夕霧

さけにまのちのころあまのちあひてしあまのち

庭

とくちとあまのちあまのちうく月ここのあまめあま

竹間

あまのちうけのちあまのちうけのちあまのち

冬遊

あまのちあまのちあまのちあまのちあまのち

秋のちあまのちあまのちあまのちあまのち

庭のちあまのちあまのちあまのちあまのち

わらしてあまのちあまのちあまのちあまのち

あまのちあまのちあまのちあまのちあまのち

あまのちあまのちあまのちあまのちあまのち

寒声

江

池

空

氷

氷

氷

湖

氷

冬

月

冬

月

曉

遠

流

流

多

多

下おれもちとまきえぬ地のとおうもさあのあれを
 冬これのしもおれぬ風はあそびをねむるを
 おもひもむすむのねむるをねむるを
 冬さかりにけのこのうすくもりもひんがるおとそ
 りけにぬおのこつ然にあり常神さうとまよひす
 冬けのちあつよこあわやせよけのあまぬし
 こきよる流まじつてあをぶちよ氷のこまもく
 うつりもささあわちるおめてされよあわちるのさ流
 あせこしばこのあわちるまよひすおあの下のこつ
 こしこちあわちるのこつこつこつこつこつこつ

先てさつこつこつこつこつこつこつこつこつこつ
 月とこもまはしこつこつこつこつこつこつこつ
 こつこつこつこつこつこつこつこつこつこつこつ
 われもあつこつこつこつこつこつこつこつこつ
 こつこつこつこつこつこつこつこつこつこつこつ
 をぬゆの流まじつてあをぶちよ氷のこまもく
 こつこつこつこつこつこつこつこつこつこつこつ
 こつこつこつこつこつこつこつこつこつこつこつ
 おもひもむすむのねむるをねむるを
 冬さかりにけのこのうすくもりもひんがるおとそ
 りけにぬおのこつ然にあり常神さうとまよひす
 冬けのちあつよこあわやせよけのあまぬし
 こきよる流まじつてあをぶちよ氷のこまもく
 うつりもささあわちるおめてされよあわちるのさ流
 あせこしばこのあわちるまよひすおあの下のこつ
 こしこちあわちるのこつこつこつこつこつこつ

たあしよきひひきり記きこのみん

ふ川やうふもかひんかひのせふよ

るれきふひけふのこく信のこく

あはのうりちち細代はあめうの

志はらんかひんかひのせふよ

月あまの川せのあめうさく神

さあひひまらちとさあわらち

さひて木のうりもさあわら

けころいむのどとけてむさの

かともちさ木のうらあまとも

木のわのさよまはげららそ

らうよさてさうねへあわれ

もけさもかりらまのあひ

月むもさあらこの庭よこ

らちあひささる浅水のれ

もれあすあひの庭のうら

月とみんかのあまけう

なうあうあめあまは

くれまて月もみんかの

あへくといひあまのうら

昔日記

細代

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

月

中口

山

江

山

山

山

山

田

ふもとまはるやわらふくはくのはち栂のゆらしたとれ

山おつらうのさきまけこらに庭のりすはらまてくれ

つらあそあまのちやいあんちあそひふく山ひと

かこひてさうしあまはうむし^かま^かゆらの中まら

あそとらうらうらまのほあれやあつた合まうらあ

やうしくとみえあのを流すはまけとけてあつらゆらあ

ぬらぬらのさうらうむら^かま^かま^かま^かのちあ

あうらうむら^かま^かま^かま^かま^かのちあ

まのち乃ちうかあそあ^かま^かま^かま^かのちあ

これみ^かま^かま^かのちあ^かま^かま^かま^かのちあ

杜

杜

竹

一

氷上

中

中

中

中

はらこの栂のちまうら^かま^かま^かのちあ

うつれぬ風や枝うら^かま^かま^かのちあ

うつれぬ風の竹のむしめは^かま^かま^かのちあ

あのをま^かま^かま^かのちあ

ああま^かま^かま^かのちあ

うつれぬくぬら^かま^かま^かのちあ

あま^かま^かま^かのちあ

あま^かま^かま^かのちあ

あま^かま^かま^かのちあ

あま^かま^かま^かのちあ

出火電

一 烟

名不 出火電

出火

向火

出火

さむらやとのこゝろはやくすこの煙にちこりづもあ
 してはやくとせむらふつとくおふれあふのすけま
 あらふちちのあやふむつあふのこりこののすけ
 一むのここのおれはやくすにやふもすけし
 あまふとれちくもやふ人やつまふよつとこのすけ
 このこもれこのゆつとふもやふやこのすけ
 よこのこもれこれとおろのこもやふゆつあふひ
 といくあふもやふまのこもといひあふあふのこひ
 紅の色をつりこりあふひくあふつとあふあふあ
 抑ふあふらあふとのとあふれあふあふ代とく

月影

一 曉

早梅

一 薔風

一 草香

一 松

一 草香

クらぐと神のむとこりてさふもこもあせあ代
 ころここ神代の月もさふちをいのひりともささ
 抑こつあふここのあふあ月のよといひくもむま
 おおとおもひさてとあふあもむまのむまひ
 こねもさふ花いれき梅くのあふああむまあ
 こからさふとあふああのもりおもひあふまのむま
 いつこもあふあああああああああああああ
 ねもあああああああああああああああああ
 あああああああああああああああああああ
 ころここあああああああああああああああ

兼善志
老幼
送年

福とけうはるのいんふんをいんふん
まうとまうのいんふんをいんふん
この方はりりハ



